

生田緑地自然環境保全管理会議ニュースレター

■ 議事概要

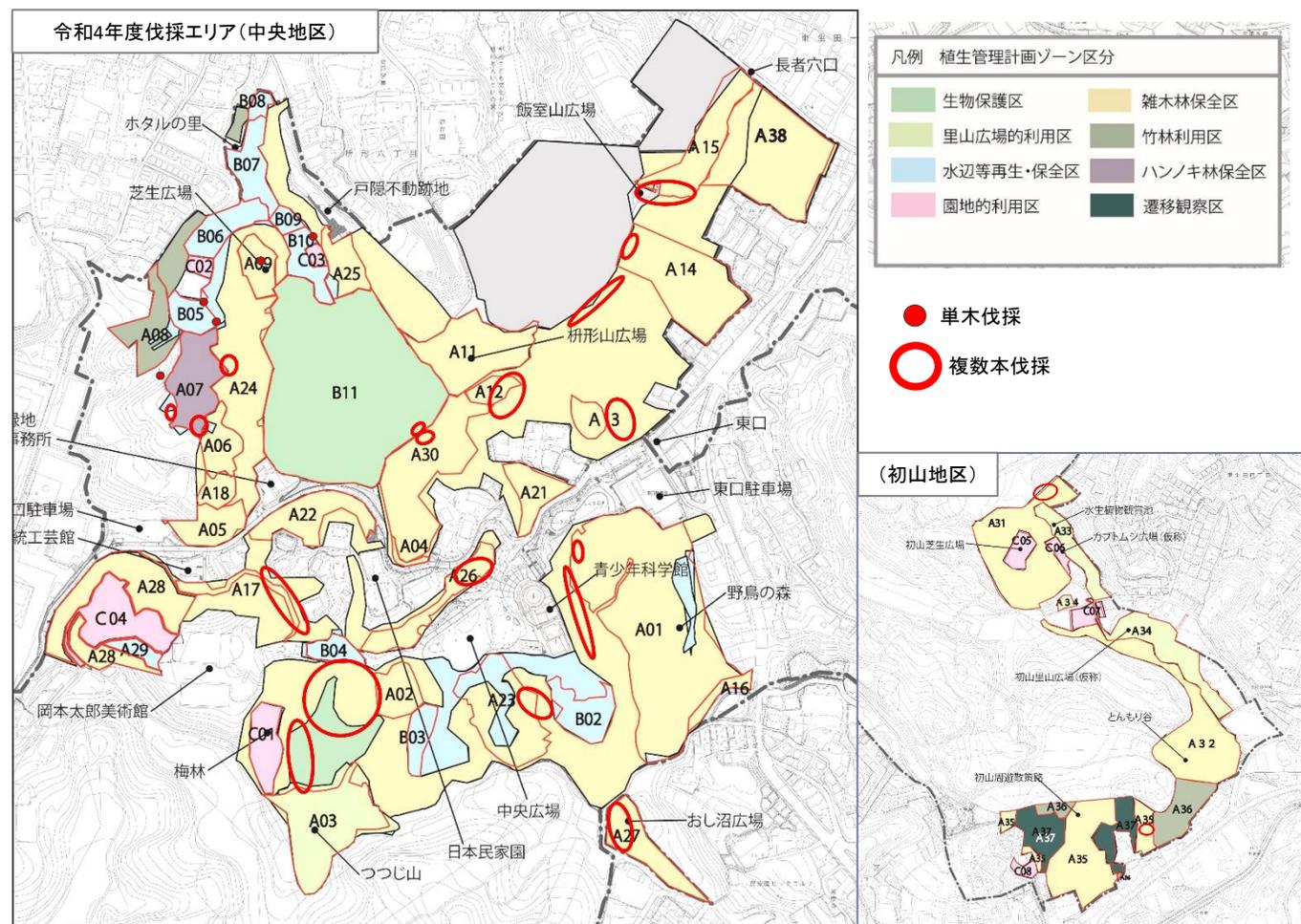
- ◇日時：令和4年12月9日（金） ◇場所：市民活動室 ◇参加：13名
 ◇議題：1,ナラ枯れに伴う園路の一部封鎖について 2,令和4年度伐採エリアにおける今後の管理について
 3,今後の目標植生を考えるための情報共有
 4,「生田緑地における植栽について」今後の進め方 5,その他

1. ナラ枯れに伴う園路の一部封鎖について

現在、作業が始まっている伐採エリア及び1月以降の伐採エリアの予定を共有しました。現在HPで公表している通行止めエリアの他、中央広場客車裏も伐採します（通行止めは行いません）。

2. 令和4年度伐採エリアにおける今後の管理について

生田緑地 植生管理計画ゾーン区分マップと照合し、伐採エリアの多くが『雑木林保全区』に該当することを共有しました。集団的に伐採されるエリアは今後植生が大きく変化する可能性があります。ナラ枯れを機に『これからの生田緑地の自然についてどう向き合っていくか』意見交換が行われました。



【基礎知識：植生管理の分担について】

生田緑地では、活動団体・指定管理者・川崎市がそれぞれエリアを受け持ち、植生管理を行っています。

指定管理者管理エリアについて

指定管理者が管轄しているエリアのうち、集団的に伐採されるA35（初山地区）は、今後、植生の状況確認（モニタリング）を行っていきます。

管理者未設定エリアについて

梅林（CO1）東側については、暫定的に指定管理者が管轄することとし、今後の作業計画を改めて検討していくこととなりました。

④『これからの生田緑地の自然についてどう向き合っていくか』

本課題について、自然会議会員のみならず会員以外の方々も含め、多くの人の知恵を共有する場を企画していくことを参加者一同、合意しました。

意見（抜粋）

- ・20年後を見られる若い世代に参加してほしい。
- ・環境省で「生田の雑木林50ha」が指定されている。
かつての薪炭林として70%がクヌギ・コナラであったが現状変わってきている。
- ・「市民が楽しめる再生保全」が理想。
- ・目標設定は、大型鳥類のため高木管理が必要なエリアもある。
- ・ナラ枯れにより昆虫層に変化が見られる。老熟林、若齢林はそれぞれ守りたい。



3.今後の目標植生を考えるための情報共有

倉本会長より『草原の歴史』について解説がなされました。明治初期の日本は草原が優占していました。ナラ枯れ伐採後に発芽する植物についても、草原性の種が今後注目されます。

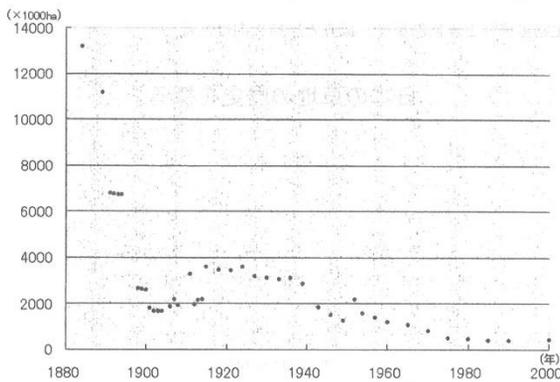


図1. 統計値による明治以降の草原面積の推移（小椋2006より）。
（1913年までの値にはとくに大きな問題があるところが多い。）



図5. 明治前期から後期にかけての房総丘陵の草原分布の変化。
灰色の部分が明治前期から後期にかけて減少した草原部分。約20年間に草原は半減した。

▲日本の草地の歴史を探る

小椋純一,2010,日本草地学会誌第56巻第3号より

▲房総丘陵と筑波山地における明治前期から後期にかけての草原の減少

小椋純一,2019,生物化学第70巻第4号より

4.「生田緑地における植栽について」今後の進め方

合議内容：今後、生田緑地内で植栽工事が行われる際は、「設計者に種名を明示してもらおう」「管理者は植栽されたものの記録を残す」ことを合議しました。

要点：外部意見も取り入れ、新たに「生田緑地における植栽について」としてまとめました。

「遺伝子を大切にしよう」という考え方を、市民・川崎市職員へ普及していくことの大切さを共有しました。

経緯：自然会議では、令和3年に「生田緑地付近に植栽可能な植物を選定するためのガイドライン(案)」をまとめました。これは、遺伝子交雑の観点から土着の植物を保護する目的で作成されました。

5.その他

- ・日本民家園より、古民家周りの今年度の支障枝剪定及び伐採作業について説明がありました。
- ・自然会議会員について、現在の会員では意見が限られるため、より多くの団体に入ってもらいたい必要があることを共有しました。
- ・自然会議会員用メーリングリストについて、事務局が管理するシステムを今後検討することとなりました。